

現場訪問 (株)NTTファシリティーズ

# 災害時、通信施設に電気を供給する 移動電源車の緊急走行訓練

NTTグループの電力設備の運用を担う(株)NTTファシリティーズ(本社・東京都港区)では、地震や台風といった自然災害で大規模停電が発生した際、被災地に移動電源車を派遣し、NTTの通信施設へ必要な電気を供給している。この移動電源車を運転する社員等を対象にした緊急走行訓練が10月29日から31日にかけて、鈴鹿サーキット交通教育センターで実施された。

このような訓練を行っている背景を同社オペレーション&サービス事業本部の大政義人さんは次のように話す。

「移動電源車の緊急走行に必要な意識および正しい知識の習得を目的に、2010年から開始しました。訓練には災害時に指揮統制を担当する社員も参加しています。こうした場合に的確な指示が出せるように、どのようなプレッシャーの中で運用者が業務にあたっているかを理解してもらおうと考えています。東日本大震災の時には、この訓練が役に立ちました。」

さらに、東日本大震災の時の記憶や経験を社内に残していくという目的もあると大政さんはいう。それを反映しているのが、訓練の冒頭に行われる受講者同士の意見交換会だ。東日本大震災発生直後被災地まで移動電源車を運転して作業を行った社員の体験談をもとに、自分がその立場に置かれたらどのような準備や行動をするべきか話し合うのである。

実践では、3日間にわたる狭路誘導(写真参照)や緊急走行演習などに取り組み。緊急走行演習では、実際に移動電源車のサイレンを鳴らし、それが周囲のクルマの車内でのように聞こえるかを体験する。



クルマや歩行者など混合交通を再現した模擬市街地コースでの緊急走行演習。赤信号の交差点を安全に通過できるように、ドライバーと助手席が連携し安全確認を行い、助手席の受講者がマイクを使って周囲のクルマなどに指示を出す



狭路誘導は車体が大きい移動電源車をパイロンで囲まれた狭路の中を誘導者の指示に従い動かすことで誘導者とドライバーとの意思疎通の重要性を学ぶ

「災害時、私たちは通信インフラの維持・復旧に必死になります。そうした状況の中でも、自身だけでなく他者の安全をいかに確保するかという意識を持つことも大切です。この訓練は、『安全を最優先する』という意識の向上だけでなく、2wayコミュニケーションの重要性を再認識できる、良い機会であり、身近でわかりやすい手法の一つと考えています」と、大政さんはこの訓練の効果

を語った。



夜間は鈴鹿サーキット国際レーシングコースで実際にサイレンを鳴らし、周囲のドライバーにどのように聞こえるかを体験



前を走行する一般車両に指示を出して、安全に追い越すという訓練も行われた



受講者同士による意見交換会

## TOPICS



保育園の園児らによる交通安全ダンス。これも交通安全指導員の山崎油美子さんが振付を行っている

9月1日、長野県塩尻市のレザンホールで「幸せを呼ぶ交通安全市民の集い」が開催された(主催・塩尻市、塩尻市交通安全会議)。このイベントは、市民一人ひとりが交通安全意識を高め、悲惨な交通事故を撲滅することを目的に平成9年から行われており、この日は市民約450名が参加した。

開会にあたり、主催者を代表して小口利幸・塩尻市長が「交通事故を起こすと、家庭や地域から幸せが無くなってしまいます。今日は様々なイベントを通して、皆様一人ひとりが『幸せを呼ぶんだ』という気持ちで再確認する機会にしてください」と挨拶を述べた。

最初のイベントはミニ交通安全教室。塩尻市交通安全会議に所属する交通安全指導員とボランティアの方々がミュージカル形式で、自転車

### 1 ミュージカルやダンスを活用して交通安全意識を高める

●塩尻市・幸せを呼ぶ交通安全市民の集い

会場内では本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロックのインストラクターが自転車シミュレーターを使って子どもたちに指導

塩尻市交通安全会議の交通安全指導員とボランティアの方々による交通安全ミュージカル

の交通安全を啓発する。主人公の女子高生が自転車で高齢者をはねてしまい、それが自分の人生や家族にどのような影響を及ぼすかを伝えるというストーリーだ。脚本や振付を担当している交通安全指導員の山崎油美子さんは「私たちは日頃の交通安全教室でも、ミュージカル形式を取り入れています。音楽やダンスを活用することで、参加する皆さんに楽しみながら安全意識を高めてもらうことが目的です」と話す。

続いて、保育園の園児らがステージに上がって、塩尻市オリジナルの交通安全ダンスを披露。この後、会場の参加者に交通安全クイズを出題し、交通ルールについて理解を深めてもらい、イベントは終了した。

また、会場内ではホンダのインストラクターが、ホンダ自転車シミュレーターを使って多くの子どもたちに安全運転のポイントをアドバイスした。



会場内では本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロックのインストラクターが自転車シミュレーターを使って子どもたちに指導

## 2 Hondaならではの教育プログラムを体験していただく

10月1日、2日、鈴鹿サーキット交通教育センターが主催する「安全運転研修ご視察体験会」が愛知県名古屋市、大阪府大阪市、広島県広島市、香川県坂出市の4会場で開催された。同体験会は企業の経営者や安全運転管理者等に、Hondaならではの教育プログラムを体験してもらうことを目的としている。

各会場では、実際の交通状況に近い動画を活用し、危険予測能力を高めるトレーニングができる「動画KYT」などを参加者が体験。坂出会場では、実車による安全運転指導の体験も行われた。



「動画KYT」を体験する体験する参加者。「動画KYT」について以下ホームページを参照。  
[http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation\\_kyt/](http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/)

## 3 生徒が文化祭の来場者に自転車の安全運転を指導

熊本県立天草高等学校(熊本県天草市)は現在、熊本県内でHondaが推進している高校生交通安全教育活動(6面参照)のモデル校の一つである。10月19日、20日に開催された同校文化祭では、交通委員会の生徒たちがHonda自転車シミュレーターを活用した交通安全啓発に取り組んだ。生徒や来場者にシミュレーターを体験してもらいながら、自転車を安全に利用するためのポイントを説明した。



# TOPICS

4

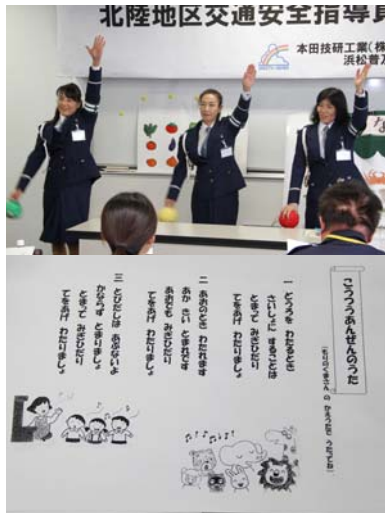
## ●北陸地区交通安全指導員研修会 互いの指導方法について 意見を交換し、交流を深める



研修会には福井県、富山県、岐阜県、静岡県から28名の交通安全指導者の方々が参加



キツネが人間の男の子に化けて街にやってくるというオリジナルのストーリーで、幼児に道路の渡り方を指導する (富山県富山市)



研修会には福井県、富山県、岐阜県、静岡県から28名の交通安全指導者の方々が参加



神経衰弱ゲームを取り入れて、高齢者に楽しみながら交通ルールを学んでもらう (福井県鯖江市)

童謡「森のくまさん」の替え歌を使って、幼児に道路の渡り方を覚えてもらう (福井県坂井市)

11月20、21日、福井県福井市にて「北陸地区交通安全指導員研修会」が開催された。これは、本田技研工業(株)安全運転普及本部浜松普及ブロックが主催したもので、北陸地区などで活躍している交通安全指導者の方々に、相互の指導方法の確認や意見交換を通じて、さらなる指導レベル向上に協力することがねらいである。今回の情報交換会には福井県、富山県、岐阜県、静岡県から11組28名の交通安全指導者の方々が参加し、各組が幼児または高齢者への交通安全指導を上演した。



高齢者に自転車の傘差し運転や飲酒運転は危険であることを伝える寸劇 (福井県福井市)

閉会式では、主催者を代表して本田技研工業(株)安全運転普及本部の宮崎光明ブロックリーダーが「指導の中に笑い」を楽しみながら、主権者を代表して本田技研工業(株)安全運転普及本部の千葉英雄事務局長が「熊本県行政と連携した高校生交通安全教育の展開」をテーマに講演を行った。

## 5 ●伊勢崎地区親子交通安全教室 企業と自治体が一体となって 親子に交通安全を啓発



(株)山田製作所の岩澤由香里さん(左)と神澤瑞樹さん(右)が「あやとりい ひよこ編」を使って子どもたちに指導

11月25日、群馬県伊勢崎市にある(株)山田製作所が主催する「第1回伊勢崎地区親子交通安全教室」(共催:本田関連企業災害防止協議会栃木支部)が開催された。この親子交通安全教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としている。この日は同社の周辺に住む親子169名が参加した。

開会式では、来賓を代表して五十嵐清隆・伊勢崎市長が「お子様の安全意識を高めていただくために、この機会を利用して、家族そろって交通安全への理解を深めてください」と挨拶を述べた。次に子どもと保護者が分かれて、それぞれ座学講習を受ける。子どもへは、(株)山田製作所の女性社員2名が「あやとりい ひよこ編」を使って、子どもたちに「止まる」「観る」などの基本的な交通ルールを説明。保護者へは、伊勢崎市交通安全課の太田要さんが子どもの行動特性や家庭内での交通安全指導のポイントを伝えた。

この後、親子が一緒に、屋外で人形を使った飛び出し事故と巻き込み事故の再現などを見学した。6歳と8歳のお子さんと参加した父親は「事故再現を見て、飛び出しの危険性やクルマは急に止まらないことを再確認しました。大人にとっても有意義な内容だったと思います。こうした本格的な交通安全教室を地元の企業が開催してくれることは、たいへんありがたい」と感想を語ってくれた。



クルマの死角の範囲を親子で確認してもらう

スーパーGTなどで活躍中のレーサー・小暮卓史選手による交通安全をテーマにした講演も行われた。講演では、今年度からHondaが熊本県で開始した高校生交通安全教育活動(6面参照)を紹介。県内の16の高校で実施している教育について、そのねらいや効果を千葉事務局長が出席者に説明した。Hondaは、この活動を全国に拡げていく考えだ。

安全・TPM推進課課長の鶴田良弘さん(ホンダパートナーシップ・インストラクター)は「自動車部品メーカーとして、交通安全の普及は重要な取組みと位置付けています。教育委員会の協力も得て、多くのお子様に参加していただくことができました。『あやとりい』を使った子ども向けの安全教育は、私たちが指導できる体制にしたいと考え、指導者役を社内でも募集しました」と話す。「あやとりい」の指導者役を務めた岩澤由香里さんは「『あやとりい』は交通ルールの必要性と意味をわかりやすく伝えることができるプログラムだと思います。私たちは興味を持って聞いてもらえる内容や話し方を考えて臨みました。予想していた以上に、子どもたちが積極的に参加してくれたので良かった」という。

トラックの内輪差による巻き込み事故の再現

## NEWS REVIEW

### ●公益財団法人 交通事故総合分析センター 自転車事故に関する各種調査・分析研究を発表



10月18日、JA共済ビルカンファレンスホール(東京都千代田区)にて公益財団法人 交通事故総合分析センター主催の「第15回 交通事故・調査分析研究発表会」が開催された。

この研究発表会は、同センターが行った交通事故に関する各種調査・分析研究の成果を交通安全対策に活用してもらうことを目的に毎年行われている。今年度は自転車の交通事故をテーマに以下の5つの発表があった。

- 1) 自転車の利用動向と自転車事故の特性
- 2) 自転車と歩行者の交通事故の実態
- 3) 四輪車と自転車の無信号交差点・出会い頭事故の人的要因分析
- 4) 運転免許保有に着目した自転車事故の分析
- 5) 電動アシスト自転車の事故分析

※発表の詳細については以下のホームページを参照。http://www.itarda.or.jp/ws/

### ●内閣府 都道府県・政令指定都市交通安全対策主管課(室) 長会議を開催

10月19日、内閣府にて「都道府県・政令指定都市交通安全対策主管課(室) 長会議」が開催された。同会議の中で、本田技研工業(株)安全運転普及本部の千葉英雄事務局長が「熊本県行政と連携した高校生交通安全教育の展開」をテーマに講演を行った。

講演では、今年度からHondaが熊本県で開始した高校生交通安全教育活動(6面参照)を紹介。県内の16の高校で実施している教育について、そのねらいや効果を千葉事務局長が出席者に説明した。Hondaは、この活動を全国に拡げていく考えだ。